（修論様式４）

学 位 （ 修 士 ） 論 文 要 旨

学 生 番 号　MV15－002　　氏　　名　山代　愛

研究指導教授　石井　元章　　研 究 領 域　芸術文化学専攻

論　文　題　目

イニシアチブをとるアダム

要　　旨（８００字以内）

フランドルの画家ヤン・ホッサールトは、1508 年から 1509 年にかけてパトロンであるブルゴーニュのフィリップに随行しローマを旅した。そこで得た古典古代の裸体表現はホッサールトの画家としての名声を高めた。

彼が 1520 年に描いた《アダムとイヴ》は、アダムがイヴに先立ち善悪を知る知恵の実を齧るという聖書と逆順した特異な図像である。だがすでに、1511 年にはミケランジェロ・ブオナルローティーが、システィーナ礼拝堂の天井画《原罪と楽園追放》に、アダムが自ら善悪を知る知恵の実をもぎ取るという聖書の記述と異なる姿を描いている。ミケランジェロと同じくアダムが自ら知恵の実を取る姿は、1513 年から 1515 年に制作された《マルヴァーニャの三連祭壇画》に見られるが、ミケランジェロのアダムと図像的類似が見られないため、この時点ではホッサールトは《原罪と楽園追放》を目にしていないであろうと推測する。その後、1517 年制作の《ヘラクレスとデイアネイラ》に図像的影響が現れる。ヘラクレスの姿と、ミケランジェロの天井画《アダムの創造》のアダムの脚は似ており、1517 年までに天井画を素描または版画などで目にした可能性が高いと考える。また、1520 年に描いた《アダムとイヴ》のアダムの脚も図像的類似が見られ、1513 年から 1515 年以前にミケランジェロの《原罪と楽園追放》に描かれた特異なアダムの姿を耳にし、その後《アダムの創造》を見たことで 1520 年の《アダムとイヴ》のような特異な図像をもつ作品が描かれたのではないかと考える。